

ゾウ、キリンなど草食動物にとってのエサは植物です。  
 そこで、植物を食べるためのおなかの仕組みをのぞいてみよう!  
 そもそも植物(=エサ)とは植物自身の体を支えるため、その細胞一つ一つが固い壁(=細胞壁)におおわれていて、植物をそのまま消化(=栄養に変えること)することは動物にはできません。  
 そこで反すうしたり、長い腸を持っていたり、動物により特徴があります。

草食動物

反すうをする動物

一度、反すう胃に入れた植物を何度も噛みなおすことで、消化の働きを促します。

《例》牛(エランド)、キリン、ラクダ

長い腸を持つ動物

シマウマやウサギは、反すう胃がないかわりに腸が長く、そこでたくさんのバクテリアの力を借りて食べ物を消化します。

反すう胃

胃は4つに分かれていて、食べ物は1→2と進み、団子のように丸めてから、いったん口に戻します。そして再び口でかみなおして3→4と進み、4で胃液を出して食べ物を溶かします。



▼胃に戻している様子



食べ物を再び胃に戻すときは、頭を上げて食べ物を③の胃に戻します。よく観察すると食べ物がのどを通る様子がわかります。

※1、2、3を「反すう胃」といいます。1~3は食道が拡張したものといわれており胃液は出ません。

このような反すうをすることで、普通の哺乳類は食べられないような「かたい草」も食べることができます。

肉食動物



肉や魚は、植物に比べて消化しやすく、栄養分もたくさんあります。このため、肉食動物は胃で強力な消化液を出して、食べ物をすばやく溶かします、栄養を吸収しやすいため、腸も短くできています。

動物園では馬肉、鶏肉を1日交替で与えます。鶏は丸ごと食べさせるのでいろいろな栄養を取り入れることができます。